

## な か ま

発行

佐倉市立中央公民館  
な か ま 編集係

〒285-0025

佐倉市鍋木町 198-3

電話 (043) 485-1801

2 ページ 思い出ポロポロ ..... 宮本沙代 電車内のお化粧 ..... 塚原謙二  
3 ページ あっち向いてホイ! ..... 永見 一 早寝 早起き 朝ごはん ..... 斎藤 雄

## 人生是偶然

岡本文隆

「人間は死ぬまでは、幸運な人と書いても、幸福な人とは言えない」。

『歴史の父』ヘロドトス（前四八四頃 四三〇以後）の言葉である。続けて言う。

「人間の一生を七十年とすると、合計二万六千二百五十日（当時の計算）となり、その内で全く同じことが起きる日は無い。人間の生涯はすべてこれ偶然である」。

栄華を誇った人が、一朝にして失意のどん底に落とされる例は数えきれない。逆もまた同じ。従って人間の評価は、死して後初めて可能となる。ヘロドトスは、だから人間はどうあるべきとは何も言っていない。歴史家は事実を述べるのみである。

ヘロドトスが述べる人物はすべて歴史上の大物である。私たち凡人には縁の無い話で

あるが、紀元前に書かれた文を現代の教訓とするのも一興である。

現代人の寿命は紀元前より少し延びて、約三万日である。六十歳を過ぎると、その内の二万日以上を消費し、残るは一万日弱となる。この一万日の中で起きる偶然は、劇症となることが多い。私ごとであるが、ゴルフ中に両足肉離れで動けなくなり、運転中に腰痛におそわれ、昨年末には、健康診断で食道ガンを宣告された。しかし今は元気に車を運転し、ゴルフも以前よりずっとと飛距離をだしている。

この経験から、ヘロドトスが「人生は偶然である」として何の教訓も述べなかつた意味がわかるような気がする。

「人生は偶然である」と認識することが大切であって、偶然に事前に対処する方法は無

いからである。

また人は死して後、初めて評価が決まるといふ。そして幸福な人とは、体に欠陥がなく、不幸な目にあわず、良い子に恵まれ、良い往生が遂げられた人であるといふ。ヘロドトスが述べる条件は非常に厳しいが、対象は全て歴史上の大物である。私たち凡人は他人に評価されることもない。そこで、せめて自分で評価したい。自己評価はいくら甘くてもかまわない。思い切り甘い評価をしよう。

終わりに人生残り数千日となった私の同朋に応援の言葉を贈ろう。

劇症の偶然に出会うことがあつても、泰然として迎えられるように心構えをしつかり持とう。そして臨終にあつては、幸福であつたと言えるように、残る日々を有意義に生きていきましょう。

（編集委員）

## 思い出ポロポロ

鬱蒼とした林が伐り拓かれ、谷も田畑も一変して今のユーカリが丘の団地は出来上がった。私たちはそうした団地の中でも“外れ”を住居に選んだ。古いままの村に近接していたからである。ここでもう三十年近くも住んだだろうか。その地の思い出は、溢れるばかりに豊かで、いとおいしい。

休みになれば、子ども達と愛犬と散歩に出かけた。昼なお暗い竹林の傍らを通り抜け、ひっそりした農家の村の中を歩いた。神社の隣の公園に行き着くと、そこは盆踊りするとき以外はいつも誰もいなくてしんとし、私達の声だけが、吹き抜ける風とともに響いていた。春は八重桜がうっとりするほどきれいに咲いていた。村の真ん中のお寺へと通じる暗い苔むした細い山道、そして「モー」と間延びした鳴

き声がする丘の上の牧舎…。

もつといくと、藁で作った蛇の魔除けが門に懸けられていたのに出遭ったことがある。旧い昔の分教場にぶつかり、思わず中を覗き込んだこともある。遠い昔の懐かしい記憶を辿る楽しさがあった。

そしてそれだけではなく村の向こうには森があり、田畑があった。森の奥のそこかしこ、田畑の彼方に“もののけ”がひそんでいるようなわくわくする気配があった。

村を抜けると、印旛沼が広がり、沼に流れる小さな川や土手があった。犬ははしゃいで走りまわり、子ども達は夢中になって路の臺、土筆や芹を採った。

ユーカリが丘とその周辺は、今と昔のタイムスリップの味わい、自然の素晴しさを私達に満喫させてくれたかけがえない地である。

(上座 宮本沙代)

## 電車内のお化粧

斜め前の席の女性、なにか小道具を使ってまつ毛を上に戻り返そうと奮闘努力中。次に眉毛を書き足した後アイシヤドウの微調整。膝の上に置いた小袋から次から次と小道具をつまみだし顔にもついでく。首を左右や斜めに振りながら仕上りの確認とお化粧の修正を繰り返す。

それが済んだら髪の毛の手入れだ。櫛をしっかりと手に持って何十回となく髪を梳く。もう殆ど病氣。髪の手入れが終わっても化粧の終わりではない。

再び顔面へと戻る。さつきやったところではないかと傍らの心配をよそに無我の境。本人としてはまだまだやり残したところがあるらしい。口紅を左右にぐいぐいと往復させたあと上唇と下唇をぱくぱくと打ち合わせた。

肩口と胸元に落ちた髪の毛

を五本の指を激しく振って床に振り落とす。

やれやれこれで終わりかと思いきや間髪を入れず携帯を取り出し天下天下我一人の世界。

親の顔が見たい本当に。どういう育ち方をしたのかな、なんて同情すらしてこちらの品位まで落とされたようないやな感じになる。

人間、恥を忘れればこの世に怖いものなしか。

(大蛇町 塚原謙二)



## あっち向いてホイ!

折々、のぞかせてもらおう居酒屋の手水場の壁に人生訓や警句が掲げられている。

“急ぐとも心静かに落ちつけて、外に漏らすな松茸の露”  
歳を重ねれば物事の判断、体力は少しずつ低下するものだ。  
酔えばなおさらだ。

そこで江戸末期から、明治にかけて最盛期を迎えた遊びに「藤八拳」がある。「ヨイヨイヨイ」の掛け声とともに勝負が始まる。相手の動きを先読みして、狐、庄屋、鉄砲の三ポーズが、グー、チョキ、パーに相当する。「タチ」というのが勝ったという宣言。三連勝すると一本である。素人目には勝負がどうついたか分からない。それを見極めるのが軍配を持った行司。運動神経のいい若手が勝つわけではなく、駆け引きに優れた七十代、八十代のベテランが結構強いのだ。

藤八拳には相撲の礼儀が数多くとりいれられて、お座敷で盛んに行われたことも確かだが、野球拳や賭け事と混同されることが多い。

かつばれには藤八拳の所作が登場し、宴席を盛り上げる幫間(たいこ持ち)の芸の一つが藤八拳。江戸の伝統芸に欠かせない雰囲気なのだ。

漱石の小説にも登場するほど。戦後は衰微しやり手はすくない。少しの空間さえあれば二人ででき一切お金はかからない。頭脳と体を使うインテリジェント・インドア・スポーツです。投扇興と同様の江戸文化でもある。囲碁、将棋も指先と頭脳も使うがいささか物足りない。

新庄選手が大リーグでナイロンに、あっち向いてホイの所作を教えている姿をテレビで見た。手近に孫との世代間を埋める絆に如何。

こっち向いてホイ!

(上志津 永見 一)

## 早寝 早起き 朝ごはん

今、文部科学省の呼びかけで「早寝早起き朝ごはん」国民運動が展開されています。

人間には日の出と共に起床して、日暮れと共に寝る日リズムがあります。

子供たちにとつて、どんなに良い食事でも良い授業でも、生活リズムが狂っていても朝の食欲も失われ、眠たさのために学習に集中できません。

これは大人にとつても共通して言うことではないでしょうか。そこでこの運動が始められたのです。

巷では携帯電話やパソコン、テレビゲームに熱中して就寝時間が遅くなり、朝ごはんをろくに食べずに登校する子供たちが少なくない、と聞いています。

そこでつぎの八項目をチェックして頂きたい。

・朝の光をいっぱい浴びている  
・朝ごはんを必ず食べてい

る。朝ごはんは家族と一緒にある。主食、主菜、副菜、汁がある朝ごはんを食べている。昼間、屋外で体を動かして遊んでいる。夜はテレビを見る時間を決めている。午後十時までに寝て、午前六時には起きている。部屋を暗くして寝ている。

祖父母そして父母のみならずは子供たちと一緒に遊び、勉強を見る時間を出来るだけつくりましょう。

「国民運動」とは、全国協議会として女子栄養大学ほか栄養士の団体や、生涯学習ボランティア指導者などが中心となり、望ましい基本的生活習慣の育成など地域社会、学校・家庭が一体となつて、心身共に健康な次代を担う子供たちの育成を目指しています。

(石川 斎藤 雄)



## 10月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

訂正

なかま9月号 No395で掲載しました「つゆの花 あじさい」について、筆者より上段右から5行目の「あまつりぐさ」を「あつまりぐさ」と訂正したいとの申し出がありました。

### さくら道

最近、自然エネルギーの有効利用で地熱発電が話題になっていますが、地熱の読み方は、チネツでもジネツでもどちらでもよいとする国語辞典がある一方で、地学辞典ではチネツだけになっています。問題は、地という漢字の読み方になります。古い版の漢和辞典では、地の音読みはチまたはヂとなっています。漢字の音読みには呉音と漢音

と唐音があります。チが漢音でヂが呉音です。

この辞典によると、地は本来、チまたはヂと読んでいたことがわかります。これをチとジにしてしまうと違和感を覚えますが、この原因は現代仮名遣いにあります。

ちぢみ（縮）のように同音の連呼や、はなぢ（鼻血）のような二語の連合以外は一般に、「ぢ」を「じ」で書くようにしてしまっただけです。

（金井義彰）

### あとがき

いまは上座の一部になっているかつての団地、ここに入居されて近くを訪ね歩いたときの思い出が語られている。思い出ポロポロ。井野の辻ぎりや旧志津小の青菅分校、真ん中にあるお寺は千手院ですか。若い女性の姿が目に見えるような「電車内のお化粧」、そういうえば、異質の他者の視線からの排除。電車の中で化粧

する女性の謎」という記事をするのかの本で読みました。

「あっち向いてホイ！」藤八拳の由来は、広辞苑などに出ていますが、長崎辺りの中国人から広まったという説もありません。

「早起きは三文の徳」といわれた昔にくらべ、「早寝早起き朝ごはん」のチェック項目で私が該当するのは、部屋を暗くして寝ていることだけです。

（金井義彰）